

■ 修士論文要旨

金融コングロマリットのコーポレート・ガバナンスに関する研究

A Study on Corporate Governance for Financial Conglomerates

神奈川大学大学院 経営学研究科
国際経営専攻 博士前期課程

山 田 洋

YAMADA, Yoh

■ キーワード

コーポレート・ガバナンス/コーポレート・ガバナンス原則/企業独自コーポレート・ガバナンス原則/国際金融監督機関/金融コングロマリット

本研究の目的は、金融コングロマリットの形成と背景を明らかにし、金融コングロマリットにおけるコーポレート・ガバナンスの現状と将来像を提示することである。そのために、①金融コングロマリット形成の目的と背景、②金融監督を行う公的国際機関におけるコーポレート・ガバナンス原則の策定、③経済先進国の金融コングロマリットにおけるコーポレート・ガバナンス構築、④経済先進国の金融コングロマリットにおける企業独自コーポレート・ガバナンス原則の策定、⑤日本の金融コングロマリットにおける企業独自原則の策定と実践に向けた提言、の5つを検討する。各章の内容は以下ようになる。

1つ目の章「金融コングロマリットの形成と形態的特質」では、経済先進国の金融コングロマリットにおける今日的課題を抽出するとともに、課題の解決策を提示することを目的とする。まず、金融コングロマリットの形態と国や地域ごとの定義について考察する。つぎに、経済先進国における

金融コングロマリットの経営状況を分析し、今日的課題を明らかにする。また、金融コングロマリットが抱える課題の解決策を解明する。

2つ目の章「金融監督システムとコーポレート・ガバナンス原則」では、金融監督システムとコーポレート・ガバナンスの関係性を明らかにすることを目的とする。まず、金融監督を行う公的国際機関である、バーゼル銀行監督委員会と証券監督者国際機構、保険監督者国際機構が策定した原則を取り上げ、原則の内容を詳細に検討する。つぎに、これらの公的国際機関が金融コングロマリットの監督を目的に設置した、ジョイント・フォーラムが策定した原則について考察を行う。また、ジョイント・フォーラムが策定した原則は、経営者の資質や適格性への言及に限られるため、今後の課題を提示するとともに展望を示す。

3つ目の章「金融コングロマリットのコーポレート・ガバナンス—金融持株会社とユニバーサルバンクに焦点をあてて—」では、経済先進国の

金融コングロマリットにおけるコーポレート・ガバナンスを検討し、各国の経営体制の現状を明らかにすることを目的とする。まず、経済先進国におけるコーポレート・ガバナンスの問題点を検討する。つぎに、金融コングロマリットにコーポレート・ガバナンスの構築が求められる理由と背景を提示する。また、経済先進国の金融コングロマリットにおけるコーポレート・ガバナンスの現状を検討し、特徴と問題点を抽出する。また、抽出した問題点から、今後の金融コングロマリットに求められるコーポレート・ガバナンスへの展望を提示したい。

4つ目の章「金融コングロマリットの企業独自原則」では、金融コングロマリットのコーポレート・ガバナンス構築を強化するうえで、企業独自原則を策定することの有効性を明らかにすることを目的とする。まず、コーポレート・ガバナンス原則と企業独自原則との関係性について考察する。つぎに、欧米の金融コングロマリットが企業独自原則を策定するようになった背景を検討する。また、欧米の金融コングロマリットにおける企業独自原則の内容を詳細に検討する。そして、それぞれの金融コングロマリットにおける企業独自原則の目的を明らかにする。さらに、金融コングロマリットにおける企業独自原則策定の有用性を明らかにするとともに、今後の展望を提示する。

5つ目の章「日本の金融コングロマリットにおける企業独自原則への展望—企業独自原則の策定と実践に向けて—」では、日本の金融コングロマリットにおけるコーポレート・ガバナンスを改革するために、企業独自原則の策定と実践に向けて提言することを目的とする。まず、日本における金融コングロマリットの定義と問題点について検討する。つぎに、日本の金融コングロマリットのコーポレート・ガバナンスを比較し、問題点を明らかにする。また、金融コングロマリットにおける企業独自原則の策定と実践に向けて提言をする。

本研究は、企業不祥事が発生しやすく、企業競争力が相対的に低下している金融コングロマリットにおいて、健全経営化と効率経営化を同時に達

成できる経営体制の構築を目指すものである。そして、金融コングロマリットにおけるコーポレート・ガバナンスの構築を促進するために、金融監督を行う公的国際機関におけるコーポレート・ガバナンス原則の策定と金融コングロマリットにおける企業独自原則の策定に対して、それぞれ展望を提示する。